

谷原中学校

谷原小学校・北原小学校

＜研究主題＞

「よく考え、伝え合い、かかわり合うことのできる児童・生徒の育成」
 ー小・中学校における連携の充実を図るためにー

本グループは、以前から小中一貫教育の趣旨を踏まえ、児童・生徒の実態から「表現力の育成」、「心の教育の充実」、「人やものとのかかわり」、「コミュニケーション能力の育成」を視点として、指導上の課題やその改善策について協議を行ってきた。その協議内容に即して、上記の研究主題を設定し、「授業改善」「心の教育」「小中交流」の3つの視点から研究を深めてきた。

3つの視点による様々な取り組み

〈算数・数学〉



課題改善カリキュラム授業実践
 谷原中学校で、数学の授業（単元「比例・反比例の利用」）を行った。今年度は改善の視点として、「図や表などを用いて視覚的に捉えさせる」ことに加え、「生徒同士で互いに説明をする活動」を取り入れた。



授業実践の成果
 協議会では、説明する活動は、説明の見通しもち、結論を導くために必要な根拠を明らかにして、口述したり記述したりするため、学習した内容をさらに深化させることになりたいへん有効な方法である等の意見が出た。

〈体力向上〉



体づくり運動～改善カリキュラムを受けて～
 谷原小学校で、多様な動きをつくる運動遊び「スーパーニンジャーになろう」という設定で検証授業を行った。授業では、子供たちから出た動きのポイントを、みんなで共有することで、よい動きにつなげることができた。



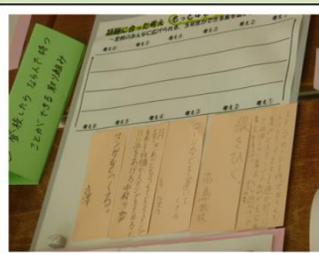
日常でも育む、持久力と巧みな動き
 体育の授業はもちろん、日常的にも体力を高められるように、マラソンカードやなわとびカードを活用できるようにした。子供たちは、自主的に運動に取り組んで、持久力や巧みな動きを高めることができた。

授業改善

〈国語〉



話し合いを深める「司会力」の育成
 話し合い活動で重要な役割を持つ「司会」が、話題を整理し、段階に応じた言葉掛けができるような手立てを講じた。司会の手立てを全体で共有することや、資料を見てすぐ活用できた点が有効であった。



ワークシート等を活用した、話し合い活動の「見える化」
 一人一人が自分の考えや立場を明確にし、グループ全体で考えを比べることができるよう、ワークシートや短冊を活用した。視覚的に「見える」ことの大切さを確認できた。

〈外国語〉



課題改善カリキュラム検証授業
 北原小学校で英語の授業を行い、その後、協議を行った。協議会では、「書く」「読む」活動を除き、児童の発表やグループ活動を多く取り入れ、「話す」「聞く」中心の授業作りをした。評価の方法が曖昧になりやすいという課題も出た。



掲示物を生かした授業作り～Activityの充実～
 ピンボードに単語を書かせるのではなく、数字で代用することにより、単語を正しく「書く」よりも、「話す」「聞く」に中心をおいた授業展開にすることができた。

心の教育



掲示物による感動の共有
 児童・生徒同士の心の交流として、運動会や文化発表会、展示会や学芸会など、全校で取り組んだ行事で子供たちが感じ得たことを言葉にし、掲示物として飾ることで、感動の共有を図っている。



課題改善カリキュラム検証授業
 谷原小学校で公平・公正についての道徳の授業を行った。協議会では、教材が児童の実態に合っていた、教師の読み聞かせが効果的だった、ワークシートの使い方や詩を引用した終末の話が有効であった、最後の話も考えさせられる等の意見が出た。

交流活動



ユニセフ募金活動
 1月に3校合同でユニセフ募金を行いました。生徒会が小学校でPRをした後、各校で募金をしました。3校の代表が郵便局まで出向き、入金をしました。生徒会は、小学生を対象とすることで、意欲的に活動できました。



部活動体験
 谷原小・北原小の6年生が、谷原中学校で部活動を体験しました。6年生にとって部活動は中学校生活の中でも関心の高い項目であり、「不安が少なくなった」「期待が高まった」などの声がありました。

成果と課題

＜成果＞

・以前から取り組んでいた様々な活動を、小中一貫教育の視点から捉え直すことで、小学生の中学校生活への不安が取り除かれたり、期待が高まったりという結果が得られた。

＜課題＞

・小中合同の活動は、時期を合わせることが難しかったり、同じ活動でもそれぞれのねらいに違いがあったりするので、小中相互の情報交換を密にし、連携を図っていく必要がある。